



ヴァシュロン・コンスタンタン

「ディプティック – コラボレーションの歴史」展

ジュネーブで開催

2019年1月14日～3月26日

2019年1月ジュネーブ・ヴァシュロン・コンスタンタンは、「ディプティック – コラボレーションの歴史」と題した展示を新たに開催します。この展示は、2019年1月14日から3月26日までジュネーブのブティックで催された後、世界を巡回する予定です。展示される17点の時計は、いずれもヴァシュロン・コンスタンタンの遺産を成すプライベート・コレクションに含まれ、メゾンの歴史の各時代を画すさまざまな人物との出会いを讃えるものが選ばれました。これらの時計は、彼らがメゾンとの協同に努めた驚くべき過去の軌跡をたどり、画期的な時計技術と装飾手法によって特別な時計や工作機器が生まれ、オート・オルロジュリー（高級時計製造）の歴史に重要なページを書き記した歩みを振り返ります。

「ディプティック – コラボレーションの歴史」展の主題は、親近感を抱き、互いに高めあうビジョンを共有し、同時代にスキルを切磋琢磨した人と人との結びつきです。例えば、時計技術の才能に恵まれた時計師で創業者の孫にあたるジャック・バルテルミー・ヴァシュロンと明敏なビジネスマンで恐れ知らずの旅行者フランソワ・コンスタンタンです。二人は、1819年に互いの才能を一つに結びつけ、ヴァシュロン・コンスタンタンと称するようになります。2019年は、その200周年を記念する年になりますが、彼らのこの出会いこそがやがてメゾンのシグネチャーとなる特色、すなわち卓越した技術と妙技を極めるデザインの絶妙な両立という時計づくりのスタイルを導き、そしてまた「可能な限り最善を尽くす、それはいつでも可能である」というモットーを生みました。「ディプティック（フランス語で「対を成す2部作」の意味）」は、その後続々と起こる出会いが、いかに時計の発展に貢献したかを語っています。

エミール・プランタムールからアルバート・ペラトンへ、レイモンド・モレッティからミシェル・ビューートルへ、この時計製造の壮大な叙事詩の中心に横たわるのは、挑戦や情熱に駆られた人々の知的な能力と手業の能力です。人類は、これらの大規模なプロジェクトの建築家であり、職人でもあります。彼らは、明確なビジョンと正しい知識を身につけ、そこから論理的に派生する専門技術も持ち合わせていました。



1839年に工作機器を専門とする時計師としてヴァシュロン・コンスタンタンに雇われたジョルジュ＝オーギュスト・レシヨールは、画期的なパンタグラフを発明し、時計ムーブメントに規格化を導入し、部品製造を工業レベルで行えるように変えました。1932年にルイ・コティエは、巧妙な回転ディスクによって世界各地の時刻を表示するワールドタイムを開発しました。有名な宝石商で時計にも通じたフェルディナン・ヴェルジェは、ヴァシュロン・コンスタンタンのムーブメントを使ってロシア皇帝向けにファベルジェ・エッグを1880年に製作しました。彼の息子も1930年代まで複雑時計や豪華に装飾を凝らした置時計などを作り、父の後継者として十分に活躍しました。2010年にはミニアチュール・エナメルの大巨匠アニタ・ポルシェがヴァシュロン・コンスタンタンのために傑作を手掛け、マルク・シャガールがパリのオペラ・ガルニエの天井に描いた絵を文字盤に正確に再現してみせました。

ヴァシュロン・コンスタンタンは、これら数々の協同による成果にスポットライトを当てています。彼らの一つ一つの挑戦や大胆な提案、荒唐無稽な夢は、時計師や装飾職人たちの天才的な技量によって時計に具現化されました。ヴァシュロン・コンスタンタンは、オート・オルロジュリーにおいて先駆者の役割を演じ、つねにその建設に努めてきましたが、これらの時計はまさに、メゾンがその巨大な建設物に貢献してきたオート・オルロジュリーを形作るかけがえのない建築資材といえるのです。

「ディプティック - コラボレーションの歴史」展

2019年1月14日～3月26日

ヴァシュロン・コンスタンタン・ブティック

プラス・ド・ロンジュマル1番地、ジュネーブ

月曜・金曜 10:00～18:30、土曜 10:00～17:00